



6:39 イエスはまた一つのたとえを話された。「いったい、盲人に盲人の手引きができるでしょうか。ふたりとも穴に落ち込まないでしょうか。」

6:40 弟子は師以上には出られません。しかし十分訓練を受けた者はみな、自分の師ぐらいにはなるのです。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁には気がつかないのですか。

6:42 自分の目にある梁が見えずに、どうして兄弟に、『兄弟。あなたの目のちりを取らせてください。』と言えますか。偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうしてこそ、兄弟の目のちりがはっきり見えて、取りのけることができるのです。

6:43 悪い実を結ぶ良い木はないし、良い実を結ぶ悪い木也没有。

6:44 木はどれでも、その実によってわかるものです。いばらからいちじくは取れず、野ばらからぶどうを集めることはできません。

6:45 良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。

6:46 なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行なわないのですか。

6:47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行なう人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。

6:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似

ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。

6:49 聞いても実行しない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一べんに倒れてしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」

人のことはよく分かるものです。どこが間違っているかを教えてあげるのは親切かもしれませんが。しかし、それで人が変わるかという、そうでない場合があります。言い方が的確でないかもしれませんが。またタイミングやその人の気持ちもあるでしょう。

もしも自分の中にある間違いにも気づかないようであるなら、相手に効果的な伝え方ができないだけでなく、本当の必要に気づかないかもしれません。自分の間違いに気づかないのは、目の中に「梁」があるからだ、イエス様は言われます。まずは自分自身の罪に気づきましょう。

またイエス様は行いのある信仰の大切さを語られます。そもそも実践しよう、従おうと思ってみことばを聴いているか、これが大切です。それが土台です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

